

平成維新を実現する都民の会第39回運営会議議事録

※(敬称略・文責:杉原健児)

【日時】1998年9月4日(土) 18:30~21:00

【会場】新宿区立リサイクルセンター4階。

【出席】阿部悠逸・板橋光紀・大谷和夫・小枝尚・小俣一郎・佐藤鶴次郎・澤井正治・杉原健児・治田桂四郎・藤本欣士・松延周平、以上11名。

【委任】江頭清昌・大山悦男・小田武史・山崎康彦。

【配付資料】

- (1) 9月運営会議の議題案(治田)
- (2) 平成維新東京役員人事一部改定案(治田)
- (3) 98年度平成維新東京・活動方針案(治田)
- (4) 地方自治一道州制:比較誘導データ(大谷)
- (5) モンゴル民族音楽友好コンサート案内(治田)

【回覧資料】

いしん埼玉市民の会/平成維新千葉B.T./かながわ市民プレス/東海平成市民の会掲示板・ドカハートランド/あしたの風・女たちの平成維新/大前研一通信(杉原)

【議事】(議長:小俣)

【1】議題内容及び順序の確認・委任状の確認。

【2】前回議事録を確認、原案通り承認された。

但し役員名簿について2-3誤りがあり、本日の役員変更決定を含め再掲載(P.10)することとした。

【3】会報編集・発行について(杉原会報担当):

- (1) 会名変更に関する寄稿が4件あった。次号にも多くの投稿をお願いしたい。
- (2) 会報掲載内容に対して、直接質問が出来るようにとの意見があった⇒出来るだけ、投稿者の了解を得て連絡先電話番号を掲載する。
- (3) 会員名簿の住所等の開示の要望があった⇒討議の結果、要請があれば、使用目的等を勘案して、代表の責任において提示することとした。
- (4) 治田代表の12月都外移住に伴い、会報差出人を事務局・杉原健児に切り換えることとした。なお切り換え時期については、杉原一任とした。
- (5) 杉原より会報の会員外発送を現在の全国の有志57人に加え、影響力のある著名人7名を追加したいとの提案があり、取り合えず了承した。なお次回発送先リストを元に、検討することとした。

【4】治田代表からの挨拶があった。

- (1) 新宿・武田純明氏逝去。ご冥福をお祈りします。
- (2) 笹本氏は7日手術されるとのこと。全快を祈る。
- (3) 山崎氏が仕事都合他で役職を辞退された。今後は独自で世界的視野の運動展開の由。成功を祈る。

【5】各区活動報告:(AM:エリアマネージャー)

- <1区> 佐藤AMより報告:新宿オンブズマン準備会が開かれ、学校跡地ビル建設の阻止陳情予定。
- <2区> 大谷AMより報告:8月27日例会出席5名。
- <3区> 澤井AMより報告:8月15日例会出席6名。井上小枝子主催・歴史認識の会9/13開催予定。
- <5区> 治田AMより報告:9月5日例会開催予定。
- <6区> 阿部AMより報告:8月22日例会出席8名。新規入会2名。

<10区> 小枝氏より報告:8月21日10区の会開催。

【6】KANプロジェクト特別委員会:

- 小俣委員長より活動経過と協力要請あった。
- (1) 毎日曜日16:00-17:00 池袋駅西口でピラ配り。
 - (2) 菅直人政権の「政策作り」及び「候補者擁立」に参画したい。皆さんの参加・協力を願いたい。

【7】山崎副代表辞任に伴う役員人事異動について:

治田代表より資料に基づき説明があり、協議し

た結果、全員賛成で原案通り決定された。内容は、前回掲載の訂正を含め、本会報 P.10 掲載の通り。

【8】98年度活動方針について:

治田代表より資料に基づき説明があり、討議の結果、本会報 P.4 掲載の通り決定した。

【9】新ブレークスルー思考特別委員会について:

大谷委員長より、10月末から4~5回の会合を持って、成果を纏めたいとの報告があった。

【10】会名変更の手続きについて:

杉原総務担当より、年内に総会を開催するための会報告知等の手続きについて副代表会議で纏め、次回運営会議で諮るとの説明があった。

【11】地方自治一道州制比較誘導データについて:

大谷氏より資料に基づき説明があり、討議した。首都圏を除き、財政的に大変厳しいとのこと。

【12】藤本きんじ氏の豊島区議立候補表明があった。

【次回】第40回運営会議:1998年10月5日(月)

18:30~21:00 新宿リサイクルセンター。

「平成維新東京」の各種活動状況

【A】東京2区・8月例会議事速報(大谷和夫)

日時:1998年8月27日(木) 18:30~21:20

場所:喫茶室ルノアール蒲田西口店

出席:清端久興・大谷和夫・神村知行・池田静雄・柳田康雄、以上5名(他に出席予定者5名)

1. 前回議事録朗読確認

2. 8月運営会議速報報告

生活者通信編集より会名変更に関する意見の投稿募集があり、大谷より「会名変更問題所感」と題する応募原稿を紹介する。趣旨は、運動方針を重点化した上で、それに適合する、短い、分かり易い名称を会員のアイディアで選択することが望ましいとしている。尚運動の原点となる「平成維新憲章」を添付した。

又新ブレークスルー思考の今後の対応に関連して、9月の運営会議で特別委員会として発足することになった旨、その後の経過報告が行われた。

3. 続道州制実現推進運動

前回に引き続き道州制実現推進運動について検討を行った。討議資料として下記が提出され、それぞれ説明が行われた。

(1) 直近に出版された平松、大前、江口3氏の「熱論・合州国家・日本」とその要約。

(2) 平成フォーラムの「地方自治一道州制 比較データ1, 2」

(3) 上記データより Excelで加工したグラフ「道州別一人当たり各種税金」

上記資料に基づき、議論百出したが、強いて要約すれば次の如くなる。

A) 現在の中央集権システムは君主制臣民統治システムそのものである。中央政府も又地方自治体も経営感覚が欠如しており、資料3からみられるように、首都圏、中部、関西の税金をその他の地方に分配し、利権と寄生虫に蝕まれて閉塞状況に陥っている。

B) 一方有権者も、自分たちが社会を作っているという意識が低く、自立心に乏しい。又民主主義の基盤が歴史的に脆弱である。しかし批判より情報の注入による覚醒が必要である。